LABEL PRINTER

Patent number:

JP3138171

Publication date:

1991-06-12

Inventor:

USHIJIMA KOSUKE; others: 02

Applicant:

TOKYO ELECTRIC CO LTD

Classification:

international:

B41J5/30; B65C9/46

- european:

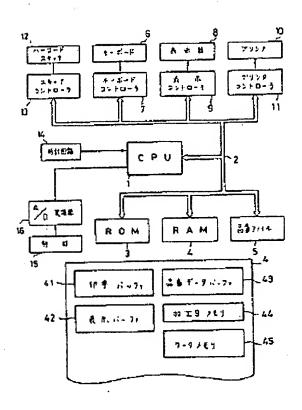
Application number:

JP19890275036 19891024

Priority number(s):

Abstract of JP3138171

PURPOSE:To relieve the load on a shopgirl and annoyance on the customer side by a method wherein the points of coupon are determined based on the price of a specified commodity, and a coupon point data and the processed day in a processed day memory are printed on label paper and issued. CONSTITUTION: The price is calculated by taking in a weight data from a balance part, and the price and the weight are added to be registered in a corresponding total area of an article number file 5. At the same time a measuring label of a specified format is issued. Further, coupon points are calculated by multiplying thus calculated price by a preset factor for calculating the coupon point and further, a processed day in a processed day memory 44 is read out as a coupon issuing day. Then, a coupon valid day is calculated from this issuing day and a coupon valid period in an article number data buffer 43. Thereafter, when a measuring label is confirmed to have been issued, a printer is driven to be controlled again, and the coupon points, the coupon issuing day, and the coupon valid day are printed on a label paper. Then, it is issued as a coupon label. Thereby, load on a shopgirl and annoyance on the customer side are relieved.



Data supplied from the esp@cenet database - Patent Abstracts of Japan

19日本国特許庁(JP)

①特許出願公開

◎公開特許公報(A) 平3-138171

Sint. Cl. 3

識別記号

庁内整理番号

@公開 平成3年(1991)6月12日

B 41 J 5/30 B 65 C 9/46 B 8907-2C 7127-3E

審査請求 未請求 請求項の数 4 (全7頁)

図発明の名称

ラベルブリンタ

②特 顋 平1-275036

②出 願 平1(1989)10月24日

@ 発明者 牛島

康 祐

静岡県三島市南町 6 番78号 東京電気株式会社三島工場内

砂発明者 関

n 827

静岡県三島市南町 6番78号 東京電気株式会社三島工場内 静岡県三島市南町 6番78号 東京電気株式会社三島工場内

® 売明者 真野 一志

静阿県二岛市開町 0 番 / 8 号 果 泉 取 水 入 会 住 二 岛。

创出 顋 人 東京電気株式会社

東京都目黒区中目黒2丁目6番13号

60代 理 人 弁理士 鈴江 武彦

外3名

明 銀 春

1. 免明の名称

ラペルプリンタ

2. 特許請求の範囲

- (2) 旬記クーポン点数快定手段は、予め設定された技算式に従って前記指定商品の値段からクーポン点数を算出して快定することを特徴とする請求項1記載のラベルブリンタ。

- (3) 前記クーポン点数決定手段は、予め各種値段に対応してクーポン点数が設定されたテーブルを 設け、前記指定商品の値段に対応するクーポン点 数を前記テーブルから終出して決定することを特 做とする結束項1記数のラベルブリンタ』
- (4) 的記クーポンラベル発行制如手段は、各商品毎にクーポンラベルの発行有無を指示する情報を設定配包し、前配図品指定手段により指定された問品に対してクーポンラベル発行有が指示されているとき、前配クーポン点数サータのクーポンラベルを発行することを特徴とする結束項1記数のラベルブリンタ。

3. 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

本発明は、顧客に買上げ金額に応じたクーポン 身を発行し、このクーポン券を用いて次回以降に 値引などの特異を寄与するようなサービスを行っ ている店で使用されるラベルブリンタに関する。

【従来の技術】

従来、例えば肉頭や野菜類等の計量商品を対面 販売する場合に用いられる針数ラベルブリンタは、 拝郎を有するとともに、各商品の品 に対応して 品名、単価、有効期間等の品番データがそれぞれ プリセットされた品番ファイルを有する。また現 在の日付が加工日として設定された加工日メモリ を有する。しかして、例えばキーポードから貿品 の品委が指定人力されると、上記品香ファイルか ら世定品者に対応する品番データを絞み出すとと もに、存部から当該商品の重量値を取込み、その 産量値と単値とから値段を算出する。また、加工 日メモリの加工日と有効期間とから存効日を拝出 する。そして、表示部に品名、値段などを表示さ せるとともに、印字都にて所定のラベル用紙に品 名、単毎、重量値、値段、加工日、有効日等の商 品情報をそれぞれ印字してラベル発行するものが 一般的である。

ところで、これらの計量商品を取り扱う店のな かには、顧客に質上げ金額に応じたクーポン券を である。
従来、このようなサービスを行っている店では、
例えば1点のクーポン券をラベルブリンタの近く
に多数枚用意しておく。そして、店員はラベルブ
リンタを用いて観客の買い上げた商品の計量を行
うとともにその商品の品番を譲うベルブリン 年に
抱定人力する。そうすると、表示部にその商品の
値段が表示されるとともにラベルが発行されるの
で、ラベルを商品に貼付して観客に手波す。また
店員は表示部に表示された値段を見てクーポン点

処行し、次回以降の買い物のとき、有効期限内で

あればこのクーボン島を用いて値引などの符段を

寄与するようなサービスを行う店がある。このよ

うなサービスを行うことにより収客の再来が見込 めるので耐寒の食象化をはかることができ好気合

一方、客は店から免行されたクーポン券を例えば合紙に協付けして収集し、所収の点数を書替したならば店に持っていく。店倒は顧客から合紙を

放を計算する。そして、そのクーポン点数分のク

ーポン券を揃えて日付印を押し、顧客に手彼す。

受け取るとクーポン参の日付から有効期限を確認 し、有効期限内であれば今回買い上げた餌品から クーポン点数分の値引を行う。

【発明が解決しようとする舞蹈】

しかるにこのようなクーボンのを用いたサービスは、次のような点で不十分であった。すなわち、店舗は店員が顧客の買上げ金銭に応じてクーボン点数を算出して必要な枚数のクーボンのを揃え、 そのクーボンのに発行日の印を押して顧客に載さ なければならず、負担が大きかった。一方、客倒 も店から発行されたクーボンのを合紙に挙付けし て収集しなければならず、管理が面倒であった。

そこで本発明は、観客の實上げ金額に応じてクーポン点数を自動算出してそのクーポン点数と発行日とが印字されたクーポンラベルを発行でき、 店員の負担軽減をはかり得るとともに、客館にとっても無付けすることなく台紙にクーポンラベル を貼付して収扱でき管理の傾わしさを軽減できる ・ラベルブリンタを提供しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

本発明は、加工日を記憶する加工日メモリを役け、商品指定手段により商品が指定されると、その指定商品の品名。単価。値段等とともに加工日メモリに記憶された加工日を所定のラベル用紙に印字してラベル免行するラベルプリンタにおびいてクーボン点数を決定するクーボン点数決定手段と、指定商品の方式が発行後、決定されたクーボン点数データもよび発行するクーボンラベル発行制御手段とを留えたものである。

そして、クーポン点数決定手段としては、予め 設定された放算式に従って指定商品の値段からク ーポン点数を算出して決定することが考えられる。 また、予め各種値段に対応してクーポン点数が 設定されたテーブルを設け、指定商品の値段に対 応するクーポン点数を前記テーブルから統出して 決定することも考えられる。

一方、クーポンラベル発行制御手段としては、

各商品毎にクーポンラベルの発行育無を投示する 体報を設定記憶し、商品指定手段により指定され た商品に対してクーポンラベル発行有が担示され ているとき、クーポン点数決定手段により決定さ れたクーポン点数データのクーポンラベルを発行 することが考えられる。

【作用】

〔突悠例〕

以下、本発明の一実施興を図面を参照しながら

キャナ12からパーコードデータが入力されるス キャナコントローラ13が設けられている。

また上記CPU1は、日付および時期を計時する時計回路14から日付および時期のデータを連時取込むようになっている。

ちらに、商品の計量を行う秤部15からの重量 信号をディジタルなカウント値に変換する A / D (アナログ/ディジタル) 変換器16にてディジ タル変換された重量値 (カウント値) が、所定の タイミングで上記CPU1に絞み込まれる。

前足品番ファイル5には、第2図に示すように、 各商品の品番に対応して品名、単価、有効期間、 クーボン有無フラグ、クーボン有効期間の各品番 データがそれぞれ設定記憶されるとともに、先上 全額等を商品別に累計するための累計エリアがは けられている。ここで、クーボン有無フラグは けられているの販売に取してその協設に応じてあっ ポンラベルを発行するかでかを決める情報であっ て、「1」にセットされているときクーボンラベ ル発行な改定され、「0」にリセットされてい 説明する.

箔1図は計算ラベルブリンタの低略構成を示す プロック図であって、斜如部本体としてのCPU (中央処理技匠) 1は、パスタイン2を介してメ モリ包およびコントローラ包を制御する。なおメ .モリ邙としては、プログラムデータ。 キャラクタ ジェネレータデータなどが記憶されたROM(リ ード・オンリ・メモリ)ろ、ゲータ処理のための 各種メモリが確保されたRAM(ランダム・アク セス・メモリ)4、各商品に付きれた品番に対応 して品名、単位環境当りの単価、有効期間などが 予め設定された品香ファイル5が良けられている。 一方、コントローラ郎としては、商品の品香指定 などを行うためのキーボード6からキー信号が入 力をれるキーボードコントローラ7、表示器8を 駆動制御して商品の品番、単価、重量、値数など を表示させる表示コントローラ9、提送されるラ ベル用紙に対して印字を行いタベル発行を行うプ リンタ10を収動制御するプリンタコントローラ 11、パーコードを砕み取るためのパーコードス

るときクーポンラベル発行無が設定されている。 また、クーポン有効期間は該当する商品の販売に よって発行されたクーポンラベルの有効期間を示 す情報である。

一方、前記RAM4には、第3関に示すように、 ラベルへの印字データを一時記憶する印字パッフ ァ41、前記表示器8に対する姿示データを一時 記憶する表示パッファ42、前記キーボード6か らの品香指定操作に応じて前記品番ファイル5か ら呼び出きれた指定商品の品番データを一時記憶 する品番データパッファ43、前記時計回路14 にて計時まれている日付を加工日として記憶する 加工日メモリ44、各種の演算処理に使用される フークメモリ45などが形成されている。

しかして、前記でPT1は、キーボード6のキー人力操作により商品の品番指定が行われると、第4図に示す処理を実行するようにプログラム制御されている。すなわち、品 恒定に応じて品替ファイル5の検索を行い、指定品 に対応する品ポータ (品名、単低、有効期間、クーボン有無

プラグ。クーボン有効期間) を呼出して、品番デ ータパッファ43に告約する。次に、品番データ パッファ43内のクーポン有無フラグを調べる。 ここで、ウーボン有無フラグが「0」にリセット されている場合には、この指定商品の販売に際し てターボンラベルの免行を行わないので、 A / D 変換器16から秤部15にて計算された度量に相 当するカウント値を取り込んで重量データに変換 し、この坦量と品香データパッファ43内の単価 とから住政を算出する。そして、この包及および 建位を品番ファイル5の指定品番に対応する累計 エリアに加算登録する。また加工日メモリ44内 の加工日データを築出す。そして、この加工日と 品番データバッファ43内の有効期間とから有効 白を算出する。しかる後、プリンタ10を駆動劇 舞して、ラベル用紙に品名、単価、重量、値段、 加工日および有効日を印字出力じ計量ラベルとし て処行して、この処理を終了する。

・一方、クーボン有無フラグが「1」にセットされている場合にも、上記と同様にして、拝部15

ンラベルの有効期間も役定する。

しかして、店員は顧客から商品の往文を受ける と、その注文明品を秤部15に載せて計量を行う とともに、生文商品に付された品番をキーポード 6から入力する。そうすると、入力品者に対応す る品番データが品番ファイル5から呼出されて単 伍と重量とから値段が算出され、第5回に示すよ うに昌名、単価、重量、値段、加工日、有効日な どが印字された計量ラベルPが発行されるので、 包装した住文商品にこの計量ラベルPを貼付して 顧客に手蔵す。また、往文商品がクーポンラベル 免行対象の商品、つまりは入力品番に対応するク ーポン有無フラグが「1」にセットされている笛 品の場合には、算出された値段に基づいてクーボ ン点数が自動算出される。また、加工日メモリ 44内の加工日がクーポン発行日として貸出され、 このクーポン発行日とクーポン有効期間とからク ーポン有効日が抑出される。そして、計型ラベル Pの見行後、疑いで第6図に示すように上記クー ポン点数。クーポン発行日および有効日が印字さ

このように構成された本実施例においては、店 倒は予め品番ファイル5に各商品の品番データを 設定しておく。このとき、値段に応じてクーポン ラベルを発行する対象の商品についてはクーポン 有無フラグを「1」にセットし、かつそのクーポ

れたクーポンラベルQが発行されるので、店員は このクーポンラベルも顧客に手蔵す。

このように本変集的によれば、商品の値段から自動的にクーポン点数を算出し、このクーポン点数を算出し、このクーポン点数や発行日および有効日が印字されたクーポンラベルを計量ラベルに続いて自動発行できる。 したかって、従来のように店員が関品の値段からクー

特別平3-138171(5)

はン点数を計算し、そのクーポン点数に見合った クーポン費を描えて発行日印を押して客に発行する手間が無くなり、店員の負担を大幅に軽減できる。また客間にとっても受け取ったクーポンラベルを用紙から割がすだけで所定の台紙に貼付できるので、従来のようにクーポン券を所定の台紙に 貼付する底に復付けする手間が不要となり、頃わしまがなくなる。

また、品番ファイル5にクーポン有無フラグの 領域を設けてクーポンラベルの発行を行うか否か を商品別に役定できるようにしたので、例えば 図 死促進したい商品のみクーポンラベルを発行する ような販売方法を取ることが容易で、実用性を向

また、加工日メモリム4の加工日データをクーポンタベルの発行日として利用しているので、クーポンタベル発行日を得るための特別な構成が不要である。しかも、加工日から有効日を算出する。との企業をでのまま利用してクーポン発行日からクーポン有効日を算出しているので、この点において

も特別な構成は不要である。よって、一般的な 9 ベルブリンタが既に持っているメモリ 切の複胞を 利用して如 6 図に示すような クーポンラベル Q を 免行できるので、コスト高となるおそれはない。

なお、本発明は耐記実施例に限定されるもので はない。例えば、顔記実施例ではクーポン点数を 子め設定された波算式によって算出して決定した 例を示したが、第7図に示すように、RAM4に 金額範囲に対応してクーポン点数を記憶するため のクーポン点数テーブル70を設け、予めこのテ - ブル70に所望の全観範囲とその金観範囲に対 応するクーボン点数とを設定しておく。そして、 第8図に示すように、品番指定に応じてその指定 題品の独皮が算出されると、その組皮が含まれる 金額範囲を求め、この金額範囲に対応するクーポ ン点数を簡記クーポン点数テーブル70からから **込出すことによって決定することも可能である。** この場合、クーポン点数テープル70の容換えに よって全額範囲に対応するクーポン点数を任意に **設定できるので、時間帯や日付によってサービス**

の割合を高めたり低めたりすることを容易に行い 得る。

[発明の効果]

以上群迷したように、本発明によれば、顕客の 対上げ金額に応じてクーポン点数を目動算出して そのクーポン点数と発行日とが印字されたクーポ ンラベルを発行でき、店員の負担軽減をはかり得 るとともに、客側にとっても相付けすることなく 台紙にクーポンラベルを貼付して収集でき智理の 狙わしきを軽減できるラベルブリンタを提供でき る。

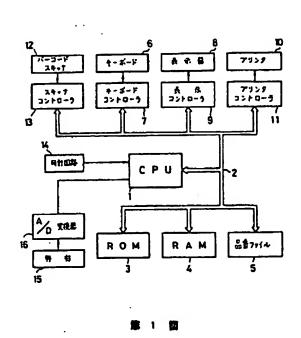
4. 図面の簡単な疑明

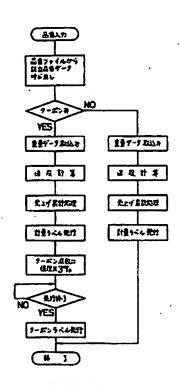
第1回ないし第6図は本発明の一実施例を示す 図であって、第1回は計量ラベルブリンタの経路 成を示すブロック図、第2図は品番ファイルの 構成を示す図、第3図はRAMの主要なメモリ様 成を示す図、第4図はCPUの品番入力に対する 免理を示す弦、第6図はクーポンラベルの発行例を示す図、第7図および第8図は本発明の他の実施例 を示す図であって、節7図はクーポン点数テーブルを示す図、第8回はCPUの品番入力に対する 処理を示す流れ図である。

1 … C P U、5 … 品番ファイル、
7 … キーボード、9 … 表示器、11 … ブリンタ、
13 … バーコードスキャナ、15 … 時計回路、
16 … 拝部、44 … 加工日メモリ、
70 … クーポン点数テーブル。

出国人代理人 弁理士 鈴 红 食 彦

持開平3-138171 (6)

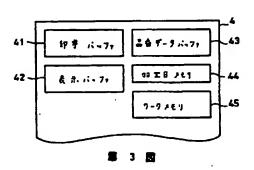


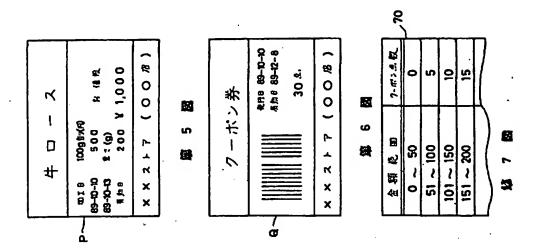


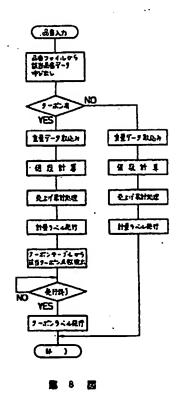
章 4 凤

å t	3 &	9 400	自然問題	7- E'> 49.717	1. おかり	Ł	Ħ
0001	F 0-X	500	3	1	60	Ŀ	_
0002	466	600	3	1	60		_
0003	4 25Y4#	400	3	1	60		
0004	0-114	100	5	0			

F 2 **F**







⑩日本国特許庁(JP)

即特許出題公開

母公開特許公報(A) 平3-138171

®Int. Cl. 3 B 41 J 5/30 (識別配号

庁内签理番号

❷公開 平成3年(1991)6月12日

B 41 J 5/30 C B 65 C 9/46 8907-2C 7127-3E

審査請求 未請求 請求項の数 4 (全7頁)

の発明の名称 ラベルプリンタ

@特 題 平1-275036

В

@出 頤 平1(1989)10月24日

位 発明者 牛島 位 発明者 関 康 祐 静岡県三島市南町 6番78号 東京電気株式会社三島工場内

静岡県三島市南町 6番78号 東京電気株式会社三島工場内

@ 明 者 真 野 一 志

静岡県三島市南町 6番78号 東京電気株式会社三島工場内

创出 顧 人 東京電気株式会社 東京都目黒区中目黒2丁目6番13号

昭

砂代 理 人 弁理士 鈴江 武彦 外3名

男 何 音

1. 発明の名称

ラベルブリンタ

2. 特許請求の範囲

(1) 加工日を記憶する加工日メモリを役け、、問品 物定手段により商品が物定されると、その物定期 品の品名、単価。値段等とともに前に加工日メモリに記憶された加工日を所定のラベル用紙にです してラベル発行するラベルブリンタにおいてチ に物定的品の値段に基づいてクーポン点設問品の値段に基づいてクーポン点設問品の値段に基づいてクーポン点で するクーポン点数決定手段により決定のテ ベル免行後、可記とより決さされた加工 まの記号ベル用紙に甲字して発行するクーポンラ その記号ベル用紙に甲字して発行するクーポンラ ベル免行類の手段とを具備したことを特徴とする ラベルブリンタ。

(1) 同記クーポン点放快定手段は、予め設定された放算式に従って同記指定商品の包設からクーポン点数を算出して快定することを特徴とする結束項1224のラベルブリンタ。

(3) 前記クーポン点数決定手及は、予め各種値及に対応してクーポン点数が設定されたテーブルを 及け、前記指定問品の値及に対応するクーポン点 数を前記テーブルから該出して決定することを特 世とする結束項1記数のラベルブリンタ。

(4) 时記クーポンラベル処行制如手段は、各商品 毎にクーポンラベルの処行有無を指示する情報を 及定記値し、前記陶品指定手数により指定された 問品に対してクーポンラベル処行有が指示されて いるとき、前記クーポン点数決定手段により決定 されたクーポン点数データのクーポンラベルを免 行することを特徴とする結次項1 記載のラベルプリンタ。

3. 発明の算組な歴明

【虚葉上の利用分野】

本免明は、顧客に買上げ金銭に応じたクーポン 身を発行し、このクーポン券を用いて次回以降に 値引などの特異を寄与するようなサービスを行っ ている店で使用されるラベルブリンタに関する。

[発录の技術]

は来、例えば内質や野菜類等の計量商品を対面 仮売する場合に用いられる計量ラベルプリンタは、 拝部を有するとともに、各商品の品番に対応して 品名、単価、有効期間等の品 データがそれぞれ プリセットされた品番ファイルを有する。また以 在の日付が加工日として設定された加工日メモリ を有する。しかして、例えばキーボードから貿品 の品番が指定人力されると、上記品番ファイルか ら祖定品書に対応する品番データを読み出すとと もに、拝部から当該商品の重量値を取込み、その 重量値と単値とから値段を採出する。また、加工 日メモリの加工日と存効期間とから存幼日を算出 する。そして、表示部に品名。住政などを表示な せるとともに、印字部にて所定のラベル用紙に品 名。単価、重量値、値段、加工日、有効日等の商 品情報をそれぞれ印字してラベル発行するものが 一般的である。

ところで、これらの計量商品を取り扱う店のな かには、取客に買上げ金額に応じたクーポン券を 発行し、次回以降の買い物のとき、有効制限内であればこのクーボンのを用いて値引などの特典を 寄与するようなサービスを行う虚がある。このようなサービスを行うことにより観客の再来が見込めるので観客の定 化をはかることができ好部合である。

一方、客は店から発行されたクーボン科を例えば合紙に期付けして収集し、所望の点数を書校したならば店に持っていく。店舗は取客から合紙を

受け取るとクーポンのの日付から有効期限を確認 し、有効期限内であれば今回買い上げた毎品から クーポン点数分の値引を行う。

【処明が解決しようとする無悪】

しかるにこのようなクーボン語を用いたサービスは、次のような点で不十分であった。すなか、次のははなの質上げ金銭になってクーボン点数をお出して必要な枚数のクーボンのを対けるのクーボンのであるに、気但が大きかった。一方、客側もおから発行されたクーボン語を合紙に知付けして収集しなければならず、管理が固切であった。

そこで本発明は、顧客の實上が金額に応じてクーポン点数を目録算出してそのクーポン点数と発行日とが印字されたクーポンラベルを発行でき、 店員の負担経緯をはかり得るとともに、客側にとっても無付けすることなく台紙にクーポンラベル を貼付して収集でき管理の頃わしさを経緯できる・ラベルブリンタを提供しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

本発明は、加工日を記憶する加工日メモリを設け、商品協定手段により商品が協定されると、その協定商品の品名、単価。値段等とともに加工日メモリに記憶された加工日を所定のラベル用紙にの字してラベル発行するラベルでは、独定年段と、協定の会とは発行した。 はない ローボン の加工日をラベル用紙に印字して発行しませるクーボンタベル発行制御手段とを個人たものである。

そして、クーポン点数決定手段としては、子め 立定された検算式に従って粉定商品の値段からク ーポン点数を算出して決定することが考えられる。 また、子め各種値段に対応してクーポン点数が 設定されたテーブルを数け、指定商品の値段に対 応するクーポン点数を前記テーブルから独出して 決定することも考えられる。

一方、クーホンラベル発行対算手段としては、

各間品母にクーボンラベルの発行有無を指示する 切戦を設定記載し、商品指定手段により指定され た商品に対してクーボンラベル発行有が指示され ているとき、クーボン点数決定手段により決定さ れたクーボン点数データのクーボンラベルを発行 することが考えられる。

【作用】

このような手段を譲じたことにより、図客が買い上げた商品の金額に応じてクーポン点放が自動な出され、そのクーポン点放およびかったいのラベル 日紙に印字されてクーポンラベルととでの発行される。従って、 題客はクーポンラベルの発行日に一致しているので、 ない は クーポンラベルの発行日に一致しているのをとなる。

[実施例]

以下、本党明の一実建賃を図面を参照しながら

が買 自動 通常 して を ラ

キャナ12からパーコードデータが入力されるス キャナコントローラ13が良けられている。

また上記CPU1は、日付および時刻を計時する時計回路14から日付および時刻のデータを通時取込ひようになっている。

ちらに、商品の計量を行う秤部15からの登量 信号をディジタルなカウント値に変換するA/D (アナログ/ディジタル)変換器16にでディジ タル変換された重量値 (カウント値) が、所定の タイミングで上記CPU1に絞み込まれる。

第足品番ファイル5には、第2 図に示すように、各国品の品番に対応して品名。 単価、有効期間、クーボン有無力のクーボン有効期間の各品をデータがそれぞれ設定記憶されるとともに、充土会観やを超品別に黒計するための無計エリアがはまけられている。ここで、クーボン有無フラグはまける 田品の販売に関してその複数に応じたクーボンラベルを発行するかで、「1」にセットされているときクーボンラベルを行有が設定され、「0」にリセットされてい

説明する.

第1団は計量ラベルブリンタの世略構成を示す ブロック図であって、制御部本体としてのCPU (中央処理袋屋) 1は、パスライン2を介してメ モリ都およびコントローラ都を制御する。 なおメ .モリなとしては、プログラムデータ。キャラクタ ジェネレータデータなどが記憶されたROM(リ ード・オンリ・メモリ)ろ、データ処理のための 各種メモリが確保されたRAM (ランダム・アク セス・メモリ) 4、各関品に付された品番に対応 して品名、単位建設当りの単価、有効期回などが 予め数定された品番ファイル5が設けられている。 一方、コントローラ路としては、斑島の品番指定 などを行うためのキーボードもからキー位号が入 力きれるキーボードコントローラ7、表示個8を 恩森製御して商品の品番。単価、金益、低股など を表示させる表示コントローラ9、撤送されるラ ペル用紙に対して印字を行いらべん発行を行うプ リンタ10を紹動制御するプリンタコントローラ 11、パーコードを疎み取るためのパーコードス

るときクーポンラベル発行無が設定されている。 また、クーポン育動制聞は変当する断品の販売に よって発行されたクーポンラベルの育動期間を示 す物報である。

一方、前記RAM4には、第3回に示すように、
ラベルへの印字データを一時記録する印字パッフ
ァ41、前記表示器8に対する安示ゲータを一時記録示グータを一時記録示グータを一時記録示グータを一時記録がである。
の品番を記録がに応じる日本の記録が一夕を一時記録する品番データパッファ43、前記として記憶する品番データパッファ43、百日として記憶することが明されている。

しかして、前記CP U1は、キーボード6のキー人力投作により商品の品番推定が行われると、第4図に示す処理を実行するようにプログラム制御されている。すなわち、品 独定に応じて品番ファイル5の技会を行い、推定品番に対応する品番データ(品名、単価、有効期間、クーボン有益

フラグ、クーボン有効期間) を呼出して、品番タ ニタパッファ43に告請する。次に、品番データ パッファ43内のクーポン有無フラグを調べ 。 ここで、クーポン有無フラグが「0」にリセット されている現合には、この指定商品の販売に難し てクーポンラベルの発行を行わないので、A/D 変換器16から秤部15にて計算された双乗に組 当するカウント値を取り込んで重点データに変換 し、この食量と品香データパッファ43内の単価 とから住民を算出する。そして、この住民および 建点を品替ファイル5の街足品番に対応する業計 エリアに加算登録する。また加工日メモリ44内 の加工日データを疏出す。そして、この加工日と 品巻データパッファ43内の有効期間とから有効 白を算出する。しかる後、プリンタ10を駆動制 御して、ラベル用紙に品名、単価、重量、値段、 加工日および有効日を印字出力じ計量ラベルとし て処行して、この処理を終了する。

・一方、ターボン有無フラグが「1」にセットされている場合にも、上記と向様にして、存取15

ンラベルの有効期間も設定する。

しかして、店員は観客から商品の往文を受ける と、その住文群品を秤部15に載せて計算を行う とともに、住文的品に付された品者をキーポード 6から入力する。そうすると、入力品番に対応す る品番データが品番ファイル5から呼出されて単 伍と重量とから位段が算出され、箆5回に示すよ うに品名、単価、重量、値段、加工日、有効日な どが印字された計量ラベルPが発行されるので、 包装した生文商品にこの計量ラベルPを貼付して 園客に手載す。また、住文商品がクーポンラベル 免行対象の商品、つまりは入力品者に対応するク ーポン有無フラグが「1」にセットされている斑 品の場合には、算出された値段に基づいてクーボ ン点数が自動算出される。また、加工日メモリ 44内の加工日がクーポン発行日として設出され、 このクーポン発行日とクーポン有効期間とからク ーポン有効日が禁出される。そして、計皿ラベル Pの発行後、縫いて筇6図に示すように上記クー ポン点数。クーポン発行日および有効日が印字さ

このように構成された本実出例においては、店 倒は予め品番ファイル5に各商品の品番データを 改定しておく。このとも、値段に応じてクーポン ラベルを発行する対象の商品についてはクーポン 有無フラグを『1』にセットし、かつそのクーポ

れたクーポンラベルQが発行されるので、店員は このクーポンラベルも原客に手茂す。

このように本裏施肉によれば、商品の値段から自動的にクーポン点数を算出し、このクーポン点数や発行日および有効日が印字されたクーポンラベルを計量ラベルに続いて自動発行できる。 したがって、従来のように店員が関品の値数からクー

特別平3-138171 (5)

ポン点数を計算し、そのクーポン点数に見合った クーポン器を描えて発行日印を押して客に発行す る手間が無くなり、店員の負担を大穏に軽減でき る。また客観にとっても受け取ったクーポンラベ ルを用紙から剥がすだけで所定の台紙に貼付でき るので、従来のようにクーポン券を所定の台紙に 貼付する臣にな付けする手間が不要となり、類わ しきがなくなる。

また、品番ファイルちにクーポン有無フラグの 領域を取けてクーポンラベルの発行を行うか否か を商品別に改定できるようにしたので、例えば販 先促進したい商品のみクーポンラベルを発行する ような販売方法を取ることが容易で、実用性を向 トできる。

また、加工日メモリ 4 4 の加工日データをクーポンラベルの発行日として利用しているので、クーポンラベル発行日を得るための特別な 構成が不要である。しかも、加工日から有効日を算出する 数能をそのまま利用してクーポン発行日からクーポン有効日を算出しているので、この点において

の制合を高めたり低めたりすることを容易に行い 思る。

[発明の効果]

以上は迷したように、本発明によれば、顧客の 質上が金額に応じてクーポン点数を目動算出して そのクーポン点数と発行日とが甲字されたクーポ ンラベルを発行でき、店員の負担軽減をはかり得 るとともに、客側にとっても相付けすることなく 台紙にクーポンラベルを貼付して収集でき智磁の 切わしきを軽減できるラベルブリンタを優供でき る。

4. 図面の簡単な説明 **

第1回ないしば6回は本発明の一実施例を示す 図であって、第1回は計量ラベルブリンタの概略 課成を示すブロック回、第2回は品番ファイルの 構成を示す回、第3回はRAMの主要なメモリ構成を示す回、第4回はCPUの品番入力に対する 処理を示す値、第5回は計量ラベルの発行例 を示す図、第6回はクーポンラベルの発行例を示す回、第7回はよび第8回は本発明の他の実施例 も特別な構成は不要である。よって、一般的なタベルブリンタが既に持っているメモリなの複胞を利用して如6図に示すようなクーポンラベルQを免行できるので、コスト高となるおそれはない。

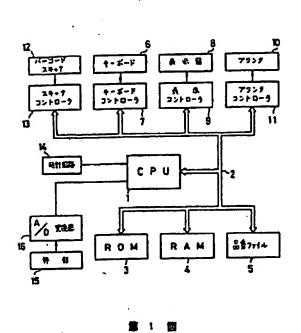
なお、本見明は耐足実施例に限定されるもので はない。例えば、前記実施例ではクーポン点数を 予め設定された改算式によって算出して決定した 例を示したが、第7図だ示すように、RAM4ド 金額範囲に対応してクーポン点数を記憶するため のクーポン点数テープル70を設け、予めこのテ ープル70に所望の金額範囲とその金額範囲に対 広するクーボン点数とを設定しておく。そして、 38 図に承すように、品番指定に応じてその指定 周品の弦及が算出されると、その徒段が含まれる 金額範囲を求め、この金額範囲に対応するクーボ ン点数を前記クーポン点数テーブル70からから **並出すことによって決定することも可能である。** この場合、クーボン点数テーブル70の音換えに よって金額箱囲に対応するクーボン点数を任意に 及定できるので、時間各や日付によってサービス

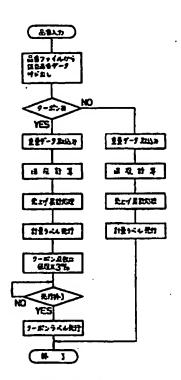
を示す図であって、第7図はクーポン点数テープルを示す図、第8図はCPUの品を入力に対する 処理を示す流れ図である。

1 -- C P U、5 -- 品番ファイル、
7 -- キーボード、9 -- 表示器、11 -- プリンタ、
13 -- パーコードスキャナ、15 -- 時計回路、
16 -- 平部、44 -- 加工日メモリ、
70 -- クーボン点数テーブル。

出版人代理人 弁理士 羚 江 北 🕏

特周平3-138171 (6)





***** 4 19

<u>.</u> 1	L	7 40	4年新聞	42711	カカの日	2 时
0001	¥ 0-2	500	3	1	60	
0002	466	600	3	-	60	
0003	4 20 7 18	400	3	1	60	
0004	0-1.00	100	5	0		

E 2 E

